

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779200647		
法人名	社会福祉法人 春栄会		
事業所名	グループホーム たんぼほの里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市鶴見区今津南3-5-5		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月13日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JivvosvoCd=2779200647-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和4年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あたたかく命を守る」という理念のもとに、ご利用者様と生活しています。感染症対策により、外出、ご家族との面会、地域の方たちとの交流と、様々な制限のある生活が続いていますが、その分、ご利用者様と向き合う時間が増えたことが、ケアに生かされていると思います。自分たちの支援がダイレクトにご利用者様に影響を与えていることがわかり「どうすればもっと良くなるのか？」常に話し合いながら進んでいます。ご利用者様を支援するだけでなく一緒に笑ったり癒されたりと、ともに楽しく穏やかに過ごせる施設でありたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは最寄り駅から近く、公園や学校との交流・買い物にも便利な場所にあります。敷地内には特養やショートステイの高齢者施設があり屋内の廊下で3施設が結ばれています。「パーソン・センタード・ケア」を学び、「だめ」や「否定すること」を止めることで利用者自身の自由な動きやコミュニケーションが増え、利用者同士の繋がりも見られるようになりました。コロナ禍の中、どうすれば感染を抑えられるのか、感染者はどうすれば居室内で過ごせるのかと対応を思い巡らせた結果、利用者とのコミュニケーションの工夫が生まれ、居室内での療養時スムーズに過ごすことができました。このように感染症で家族との面会も限られる中で、利用者と職員の間わりが深まりました。また外国人スタッフが利用者「どうしたの」と親しみを込めて呼びかける様子や熱心に介護に取り組む姿勢も他の職員により影響があります。掲示している作品について利用者の「チラシで作った、すごいやろ」とその工夫を説明する顔は自分たちにもできることがあると自信に満ち、笑みが溢れます。懐かしい歌にあわせた体操の間にも会話が弾む明るく活発なグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 太いが増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	「あたたかく命をまもる」という理念のもとに、ご利用者様の思いを大切に支援しています。	理念は各フロアに掲示されています。気持ちに起伏がある人も「変化があってもその人なのだ」と利用者の気持ちを丸ごと受け止め、温かく見守り続けることで理念の実践を目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町会に参加しています。夏祭り、敬老祭、だんじり祭、小学生の町探検、中学生の職業体験など交流があります。	利用者個人で町会に入っています。だんじりを施設内から見学をし声援を送り、それに応えるようにたくさん踊りが披露されました。地域で研修があるときは参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携して、地域のイベントに協力しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、情報交換、助言をいただいています。	地域の人たちも高齢になり、コロナ禍の今は書面での開催です。地域住民・自治体職員・家族それぞれの意見の欄を作り、意見の集約に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括と連携し、入所相談を受けています。大阪市老人福祉施設連盟に参加し大阪市との意見交換や研修に参加しています。	グループホーム委員会が対面での開催になり参加しています。またオンライン研修の連絡があれば参加し、連携が途切れないようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回以上の研修と、毎月の委員会を開催し、身体拘束ゼロを実践しています。	身体拘束委員会を毎月開催しています。「パーソン・センタード・ケア」の実践の中で「だめと言わない」「その場では止めない」ことを実行しました。寄り添い、危険を減らすことや好む場所に移動するなどの工夫を行い、本人の行動を制限しないことで利用者とのコミュニケーションが増えました。その結果利用者の協力も増え、利用者自らの行動が多くなり活発になりました。コロナに感染したときも「もうちょっと部屋におるわ」と利用者からの言葉で、居室の鍵をかけるなどの制限を避けることができました。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回以上の研修と、毎月の委員会を開催し虐待防止を実践しています。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なお利用者様があれば制度を利用できるよう支援しています。施設内での人権についても研修を通じて話し合っています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得されてから契約、解約の手続きを行っています。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情、要望、相談の窓口を説明し、意見箱を設置しています。	面会が制限されているため、電話連絡の時に要望などを聞くようにしています。他府県に住む家族が感染者の多い大阪に来ることを控えている場合もあり、電話連絡の機会を大切にしています。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見や要望を話し合い、必要に応じて管理者に報告しています。	勤務年数の長い職員もおり、要望を管理者に伝えやすい職場環境です。人手不足も少し解消しています。外国人スタッフの介護の勉強では質問に答え、お互いによい刺激を受け合い、学びに繋がっています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活状況に配慮しながら、働きやすい環境整備に努めています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修と、個々の職員に適した外部研修にも参加できるよう支援しています。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉、医療の集まりに参加するように心がけています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談の段階から、本人の困っていることや不安なこと、これからの生活についてお聞きしています。短時間ですが体験入所もしていただけます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談の段階や、施設見学の際に不安なこと、今後の要望などをお伺いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の相談で、グループホームに適していないと判断した場合には、他のサービスも視野に入れて助言しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の雑談を交わすことにより知人のような安心感を持っていただけるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活を出来るだけ小まめに報告し、相談しながら共に支援していけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、親族の来訪時に居室でゆっくりと過ごしていただけます。	リモートでの会話を促すこともありますが、利用者は家族と認識できないことがあります。アルバムを広げて、家族や当時の思い出の話を聞くなど記憶が続くようにしています。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、その都度テーブル席や散歩のメンバーを変更して対応しています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族と連携して相談しやすい環境を提供できるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子から、ご本人の望む生活が提供できるよう努めています。	利用者の言葉の裏側にあるものが何かを職員で話しあい思いをつかむようにしています。「自分の方を見て欲しいのでは」と気づいたときは言葉で伝えたり、些細なことを手伝ってみたりしています。寄り添いながらいろいろと試みることで、利用者の違う面を知ることができ支援にも変化ができました。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の回想やご家族との会話よりこれまでの生活環境を把握しています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を記録しADLの変化に合わせて対応できるよう努めています。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議にて、課題を検討し必要に応じて、医務やご家族とも相談し、より良いケアプランになるように努めています。	「今が楽しいと思って欲しい」と、ADLを低下させず、今できていることの維持を目指した介護計画を作成しています。職員も参加するカンファレンス・モニタリングは毎月開催し、記録を残しています。介護計画書は利用者には大きな変化がないときは年1回の更新です。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を利用して情報を共有しています。必要に応じてバイタル、摂取量、睡眠時間など個別に記録し対応しています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応が出来るよう努めています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し生活を楽しめるよう努めています。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望に沿った受診、往診を支援しています。	近隣にあるクリニックより週3回の医師の往診や隣接する特養より看護師が訪問し、健康管理を行っています。入所前のかかりつけ医を継続して利用したり、希望の医療機関などの受診は可能ですが、通院の付き添いは家族で行っています。家族の支援が無理な場合はガイドヘルパー（移動介護従事者）を利用しています。緊急時や夜間の対応はオンコールで看護師に連絡、24時間対応の体制が整っています。又、神経科や皮膚科、歯科の訪問診療もあります。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、日誌と共に看護師に申し送り、必要な看護を受けていただけるように支援しています。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣病院の地域連携室と情報共有し、入退院が良いタイミングで行えるよう努めています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期の意向確認書」は入所の際に説明、記入していただき、その後、何度もご家族と相談しながら進めています。	重度化や終末期の対応について入所時に説明し利用者や家族の意向を確認、「終末期の移行確認書」を作成しています。以後、適宜意向の確認を行い、更新しています。重度化や終末期の状態になった場合は意向に沿いホームで出来る限りの支援を行っていますが常時医療的処置が必要になった場合は特養や病院にての支援になります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病状に応じてマニュアルを作成、定期的に研修しています。緊急時の対応や連絡先を掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施。災害時マニュアルの作成。地域の方の避難場所にもなっています。	災害時のマニュアルは整備され、緊急連絡網も作成、職員に周知されています。年2回の消防避難訓練も行っており消防署の指導も受けています。備蓄品はホーム1階の倉庫と特養に食料品や飲料水等3日分以上保管されており期日等の管理も特養の管理栄養士が行っています。BCPIは現在作成中です。ホームは災害時の避難場所に認定されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的にスピーチロックを意識した声掛けをしています。	日頃から利用者の意向を大切に、否定しないということを意識した声掛けをおこなっています。「パーソン・センタード・ケア」を学び外国人スタッフの「どうしたの」と寄り添う尋ね方にも影響を受けました。職員研修では人権擁護について勉強しました。衣服を脱ぐ行為のある利用者には、人目につきにくい所に移動したり下着を水着のようなスポーツブラや布パンツに代えるなどの工夫事例があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見に対して否定せず一緒に考えていけるよう努めています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	生活のリズムが不規則にならないレベルで、ご本人のペースで過ごせるよう支援しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容、美容院への外出、衣服、化粧品等の購入を支援しています。		
40 (15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食やおやつは、食べたいものを聞いて用意しています。お誕生日会の手作りケーキは好評です。	朝はホームで、昼夕は隣接する特養にて準備されホームに届きます。普通食で届くので利用者の状況に合わせ、形態をトロミをつけたり大きさを一口大や刻みにするなどの対応をして提供しています。利用者は下膳など出来ることを一緒に手伝っています。昭和の音楽が流れる中、一人一人自分のペースでゆっくりと食事を楽しんでいます。誕生日の手作りケーキや行事食、弁当形式にしたりと食事が楽しめる様な工夫をしています。朝食とおやつは利用者の希望を聞き職員が買い物にしています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれたメニューを提供しています。形状、量は、個別で対応、苦手なものは、別なものと変えるなどして必要量食べていただけるよう支援しています。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守り、介助等、個々に適した口腔ケアを支援しています。週1回の訪問歯科と連携しています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導ではなく、個々の排泄リズムに合わせて声掛けしています。出来るだけ失禁を減らし、布パンツやナプキン程度で過ごすことを目標に支援しています。	殆どの利用者が日中はトイレでの排泄を基本としています。個々の排泄パターンを把握し、個別の声掛けや排泄の訴えに応じることで、排泄の失敗も少なくなり、トイレでの排泄の自立に繋がっています。パットや紙パンツの使用も少なくなり、経済面での負担の軽減にも繋がっています。歩行が不安定なため夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいます。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトや水分を多めにとるなど飲食物の工夫と腹部マッサージや体操などをして自力排便を促しています。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は固定せず、体調などを考慮して週2回の入浴を提供しています。	曜日や時間は決めずに利用者の状況に合わせて、週2回は入浴しています。殆どの利用者が個人のシャンプーやリンス等を使用しており、一人一人かごに入れて脱衣所で保管しています。機械浴が必要になれば、隣接する特養での入浴も可能です。以前、ホームの給湯器の調子が悪かった時、ジュースなど準備し、特養の大浴場での入浴を行いました。利用者には温泉気分でした。今後入浴剤の使用や特養の大浴場での入浴など企画し、入浴の楽しみが増やせたらと考えています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせたお昼寝の実施、就寝時間も幅を持たせることで安眠出来るよう努めています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の変更は、個人記録、連絡ノート、薬情ファイルに記録し、口頭でも申し送ります。お薬変更後の体調変化も記録していきます。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びのある生活が提供できるよう努めています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や知人の協力のもと、喫茶店や美容院、旅行など外出、外泊を支援しています。現在は感染症予防のため中止しています。	コロナ禍の為外出は出来ませんが、ホームの敷地が広々としている為、建物の周りを散歩して外気浴をしたり、戸外の様子を感じられるようにしています。又、家族の協力があれば感染症対策を行い近隣の散歩や馴染みの場所への外出など対応を考えています。	利用者は共有場所での動きも自主的に活発になってきました。散歩を建物の周りから少し違うコースも考えられてはいいでしょうか。利用者が身体で感じ捉える情報も増えていきます。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族や知人の協力のもと、喫茶店や美容院、旅行など外出、外泊を支援しています。現在は感染症予防のため中止しています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば居室での携帯電話は、使用できます。年賀状や暑中見舞いを職員とともに作成しています。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけで、四季の移り変わりが感じられるよう工夫しています。空気清浄機、加湿器を設置し快適な空間になるよう工夫しています。	リビングは明るく清掃が行き届き、壁面には利用者で作成した季節に応じた作品が飾られています。又、各行事の生き生きとした利用者の表情を写した写真も飾られており居心地よく過ごしているようすが感じられます。コロナの感染予防に朝夕の消毒を徹底しています。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やフロアにソファや椅子を配置しくつろげる場所を作っています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお好きなものを飾っておられます。	家族と相談し、入居前に自宅で使用していたイスやテレビ、仏壇、ぬいぐるみ、写真など馴染みの物が持ち込まれた部屋は安心して過ごせる空間になっています。マグネット機能がついた壁には写真や誕生日の色紙、職員と一緒に作った作品が飾られています。ベッド周辺は整理整頓されており、生活動線も確保されています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な生活を送っていただけるよう配慮しています。		